

Pic by AFP/時事



ARTIST

Sebastião Salgado

[Africa]

セバスチャン・サルガド。1944年、ブラジル、ミナス・ジェライス州の小さな町アイモレスに生まれる。大学では法学と経済学を学びブラジル大蔵省に勤務。その後パリ大学で農業経済学博士課程を修了。71年、国際コーヒー機関で経済学者としてコーヒープランテーション指導に携わり度々アフリカを訪れる。このとき調査のために撮影した写真がきっかけで、フォトジャーナリストを志す。73年、パリに戻りアフリカ・サヘル地域で干ばつ被害にあう人々のルポルタージュやヨーロッパの移民労働者などを取材。81年にはアメリカでレーガン大統領狙撃をスクープ。84年よりマグナム正会員。87年、世界23カ国の労働者を取材する大規模プロジェクトに着手。テーマは「集団的肉体労働者の終焉」、93年に「Workers」(『人間の大地 労働』岩波書店)として刊行され世界中から賞賛を浴びる。94年にマグナムを離れ、パートナーのレイラとともに Amazonas Images を設立。2004年からは地球の自然を撮る一大プロジェクトGENESISに取りかかり、南極観測船での2年間に及ぶ調査に同行、ブラジル大陸の森林保護にも積極的に関わっている。01年よりユニセフ(国連児童基金)の特別代表。受賞歴多数。パリ在住。

「Africa」は、71年以来サルガドが追いつけるアフリカに関するショットを一堂に会した写真集。彼の原点といえる風景の数々——自然、野生動物、貧困、そして虐殺の傷痕さえもが美しいモノクロ・ポートレートとして切り出されている。モザンビークの小説家、ミア・コートが全編にエッセイを寄せている。



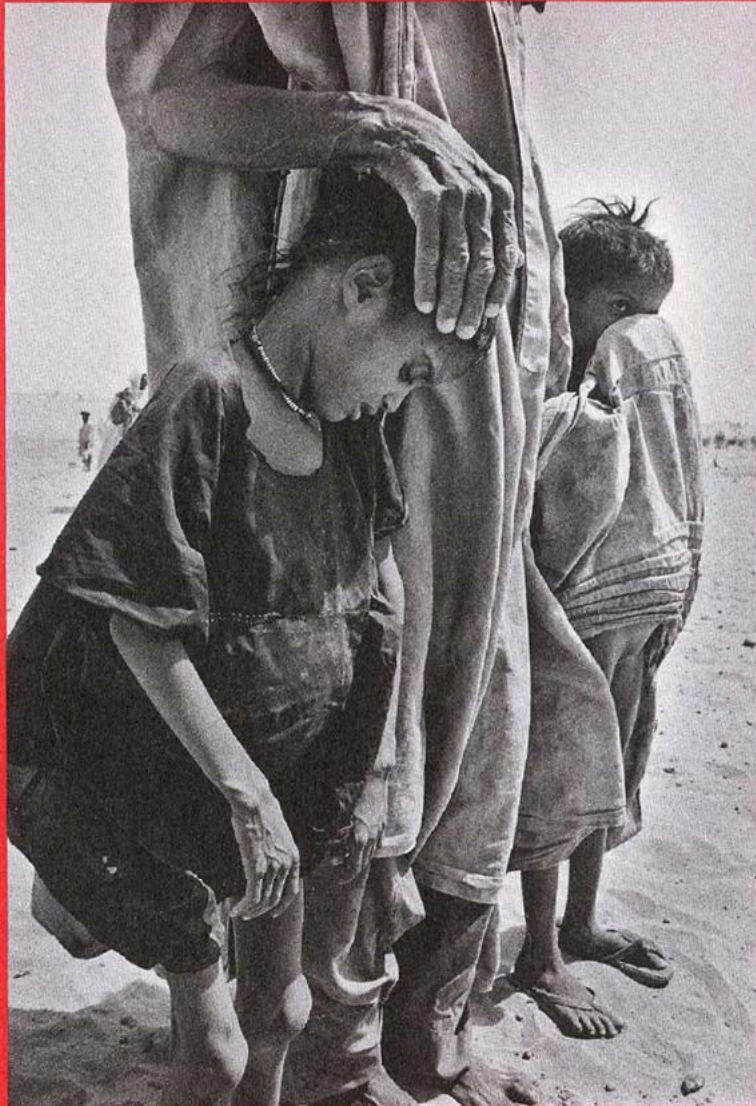
「Africa」

Sebastião Salgado著

8900円(本体価格)

タッシェン・ジャパン(Tel:03-5778-3000)

Pic by Sebastião SALGADO/Amazones Images



During the drought that caused famine in Sahel. Shielding their faces from the heat and wind, women and children walk through the desert. Mali, 1985.

干ばつが飢饉を引き起こしたサヘル地域。陽射しと風から顔を
をかばい砂漠をゆく母子。マリ、1985年